

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01198

研究課題名(和文) デジタル化資料による南方熊楠の学問構想の解読

研究課題名(英文) A Study on Minakata Kumagusu's thought, based on the digitalization of his manuscripts

研究代表者

松居 竜五 (Matsui, Ryugo)

龍谷大学・国際学部・教授

研究者番号：40238952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：南方熊楠資料に関するデジタル画像とデータベースを作成し、それらに基づいた研究をおこなった。このうち日記に関しては、これまで東京・関西・田辺で別個におこなってきた翻字作業に関する連絡協議会を立ち上げ、前年度の統合的なデータ共有と今後の刊行の道筋をつけることができた。書簡・来簡に関しては、土宜法龍・柳田国男・岩田準一関連のデータ整備や大英博物館での新たな英文書簡の発見などがあり、研究上の進展が見られた。初期ノートや「ロンドン抜書」「田辺抜書」に関しても分析を進めている。「腹稿」と呼ばれる独特のメモに関する詳細な解読が進んだことで、「十二支考」などの著作のより深く深い分析が可能になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南方熊楠の思想は、東洋と西洋の文献の総合的な読解に基づくものであり、人文学と自然科学を統合している点でも興味深いものである。今回の研究は、その膨大な情報量からこれまでは漠然と語られてきた熊楠の思想の細部から全体像までを実証的に明確化する試みである。この作業に基づいて、熊楠の思想の意義をさまざまな学問分野に還元するとともに、一般にわかりやすく解説することが可能となった。その成果は、南方熊楠顕彰館における子ども向けを含むさまざまな展覧や、一般向け書籍の刊行としても活かされている。

研究成果の概要(英文)：We have carried out the comprehensive researches of Minakata Kumagusu, based on the construction of the digitalised images and the database of his archives. As for the diaries of Kumagusu, we have organised the council of the representatives of the three research groups in Tokyo, Kansai, and Tanabe, where the procedure of the publication of the research results has been decided. As for the correspondence, those between Kumagusu and Toki Horyu, Yanagita Kunio, Iwata Junich have been arranged for the detailed analysis. We have also researched the newly discovered English correspondence between Kumagusu and the contemporary British Museum curators such as Wollaston Franks and Charles Read. We have also made progress in the research of Kumagusu's early notebooks, London Extracts, and Tanabe Extracts. The detailed analysis of Kumagusu's memorandum called "Fukko" leads us to the far deeper and wider understanding of his major works such as "Twelve Zodiacs."

研究分野：比較文学

キーワード：博物学 民俗学 人類学 生態学 宗教学 抜書 イギリス 紀伊半島

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者である松居を含む研究グループによって、1992年頃から和歌山県田辺市の南方熊楠旧邸の調査がおこなわれ、その結果として、現存資料の約8割(1980年代に国立科学博物館に移管された生物標本・図譜を除く)を蔵する旧邸資料の全体にわたる目録が作成されることとなった。この過程で関連の研究者のネットワークが結成され、第一期の年会誌『熊楠研究』(1999~2006)を中心として、資料紹介と研究の公刊がおこなわれた。また、2000年頃から東京(東京翻字の会)関西(熊楠関西)田辺(田辺翻字の会)の三つの拠点で翻刻のための研究会が組織され、それぞれ毎月、年12回おこなわれている。

こうした成果を基に『南方熊楠邸蔵書目録』(2004)『南方熊楠邸資料目録』(2005)が刊行され、2006年には旧邸隣地に田辺市により南方熊楠顕彰館(以下主に「顕彰館」と表記)が設立されて、旧邸資料が移管された。顕彰館では、翻刻成果の「顕彰館叢書」としての刊行や『熊楠ワークス』(年2回)の発行を行う他、講演会、奨励研究事業、展覧等を組織している。

一方、邸内資料調査のメンバーを中心として2015年に南方熊楠研究会(会長武内善信、会員数約50名)が発足し、毎年8月に田辺市で夏期例会・総会をおこない、その成果を毎年3月刊行の『熊楠研究』(第二期、2015~)に刊行するサイクルが定着した。またこの間、南方熊楠の英文論考の全訳や重要書簡(土宜法龍宛、小畔四郎宛、平沼大三郎宛等)の刊行、未刊行分の日記(1914~1941年分)の翻刻作業等がおこなわれ、基礎資料の拡充が図られた。2012年に刊行された『南方熊楠大事典』(松居竜五・田村義也編)では、38名の執筆者がこれらの新資料を紹介しつつ、現時点での研究の見取り図が示されている。

こうした研究成果を踏まえて、申請者の松居は2016年に博士論文を改稿した『南方熊楠、複眼の学問思想』(慶應義塾大学出版会)を刊行した。この著作では、南方熊楠の活動が10代の頃の和漢の博物学書や、20代前半のハーバート・スペンサー等の進化論関連書、また30歳前後の大英博物館等での人類学書等、さまざまな分野の読書と筆写によって支えられてきたことを明らかにしている。そして、ノートや蔵書の書き込みを丹念に分析することによって、その学問形成の過程を明確にすることができることを実証的に示したと考えている。

### 2. 研究の目的

松居が前掲書で明らかにしたように、南方熊楠はすぐれた漢文の読解力による東アジアの博物学の受容を土台としつつ、渡米後はヨーロッパの同時代の思想を高い水準で読み込んでいた。また英語・仏語・独語・イタリア語・スペイン語の能力を活かして、世界各国の人類学や民俗学の資料を収集し、それに基づいて文化や宗教の比較をおこなった。人文学・社会科学・自然科学の垣根を越えて、それらを総合化する思想を展開した熊楠の知的営為のあり方は、20世紀以降の細分化された学問とは異なる可能性を示すものである。

しかし、このような熊楠の思想は、既存の学問分野の枠には収まりきれないために、長年、日本の学界において正当な位置づけを得られてこなかった。また1990年代に始まった旧邸資料の調査は、初めてその全体像を対象としたものであるが、内容の理解という意味ではようやくその輪郭を明らかにしたという段階にある。本研究は、主に基礎資料のデジタル画像の整備とデータベースによる分析をおこなうことで、南方熊楠が扱った膨大な情報の流れを明らかにすることを目的とするものである。そのことにより、熊楠が読書や抜書、フィールドワークによって得た知識をどのように自らの思想の中で活用し、論文や書簡等にアウトプットしていったかという道筋を跡づける。

本研究を活用して作成したデジタル画像やデータベースについては、南方熊楠研究会を通じて関連研究者間で共有し、東京・関西・田辺の3つの翻刻研究会で分析を進めるが、その成果については、主に南方熊楠研究会の夏期例会における発表と『熊楠研究』での刊行としてまとめる。さらに、顕彰館での企画展やシンポジウムを通じての一般への発信を強化するとともに、同館のウェブサイトでデータベース自体の公開に向けた作業を進める。

全体として、デジタル画像とデータベースを中心として南方熊楠の学問形成を跡づける作業を本研究の最低限の責任範囲と設定しつつ、今後、資料の読解に基づいた南方熊楠の理解がより広い学問分野で展開されて行くことを促進するためのさまざまな活動をおこなう。

以上のように、本研究は主に、上記の著作で松居が提示した方法に沿って、いまだにその多くが未刊行として残されている南方熊楠資料のさらに包括的な分析を、共同作業によって進めることを目的とした。そのことにより、基盤研究の成果に立脚して、熊楠の学問的遺産をさまざまな領域の学問分野へと接合していく。そのために、これまで蓄積してきた資料のデジタル画像と、これに関するデータベースを統合し、本研究の研究分担者や関連の研究者の間で共有することで、これを基盤として効率的な共同作業をおこなうことが可能な体制を構築する。

### 3. 研究の方法

2021年4月より、研究代表者の松居竜五が和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館の館長（非常勤特別職）に任命されたために、同館との連携をさらに強めた研究展開が可能となった。こうした状況に基づいて、同館資料のデジタル資料化を進め、また Japan Search などの外部の媒体を活用しながら、資料公開ができる環境を整えた。以下、南方熊楠の未刊行資料のうちの重要なものに関する調査の現状、特にスキャンニングによるデジタル画像とデータベースの作成状況と活用状況について種類別に記す。

#### A 日記

1885年（18歳時）～1913年（46歳時）が既刊（八坂書房、1989年）、1914年（47歳時）～1941年（74歳、没年）が未刊行。未刊行分については、上記の東京・関西・田辺の三つの研究会において翻刻・編集を進め、現在1937～1939年分を除いてすべての粗翻刻を完了した。ただし、翻刻の進め方については3研究会でまちまちであったために、本研究を利用して代表者の連絡協議会を定期的におこなうこととした。この会議は2020年7月の第一回以降、2023年度まで年に3～4回の頻度でおこない、3研究会の協力体制を確立することができた。また、南方熊楠顕彰館事務局と連携しながら、3研究会のそれぞれでデジタル画像とこれまでの翻刻データの共有を進めることができた。このうちの一部は Japan Search に公開されている。また2023年度に南方熊楠顕彰会として刊行した1931～32年の日記に引き続き、未刊行分の刊行を進めていくことが確認されている。

#### B 書簡・来簡

書簡・来館の中でも特に重要なものと位置づけられる土宜法龍とのやりとりに関して、小田を中心としてデータ入力と整理作業を進めた。その結果として、これまで複数の書籍や記事にばらばらに収録されていた関連書簡を通時的に並べて読み直すことが可能となった。

熊楠の神社祭祀反対運動に関する最重要資料である古田幸吉との往復書簡に関しては、辻を中心とする研究会を組織し、既刊分と未刊行資料を統合する作業をおこなった。辻はまた、男色に関する共同研究を熊楠と進めた岩田準一との往復書簡に関しても、デジタルテキスト化を進めた。さらに平川は柳田国男との往復書簡に関するデジタルテキスト化をおこなった。

また大英博物館において南方熊楠から館員のフランクスおよびリードに宛てた書簡が新たに発見されたために、松居・志村などが中心となって、その解読を進めた。

C 初期ノート：南方熊楠が10代から20代前半にかけて作成した初期ノートには、「東京予備門時代ノート」4冊（1885～1886頃）、「南方熊楠叢書」9冊（1885）、「アメリカ時代のノート」5冊（1888～1890）、「The Scientific Memoir」3冊（1888）、「課余随筆」11冊（1884～1899）がある。これらに関してスキャンニングによるデジタル画像の作成を進めた。特に「アメリカ時代のノート」第4巻から見出された文明進化に関する草稿は貴重なものであり、松居・志村が中心となってその解読をおこなった。

D 「ロンドン抜書」と「田辺抜書」：熊楠がロンドン滞在期に大英博物館等で作成した「ロンドン抜書」52冊（1895～1900）については、松居が前掲書（裏23～74頁）に掲載した目録を用いて分析を進めた。また「田辺抜書」60冊（1907～1931）については、東京と関西の研究会の中にワーキンググループ（通称「たぬきの会」）を設けて、データベース化と内容分析を進めている。

E 「腹稿」：1912年頃から熊楠が日本語論文の執筆のために作成した「腹稿」と呼ばれるA1～A4サイズの大きめの紙を用いた特殊な草稿があり、近年の研究によって100枚以上が現存することがわかってきた。これらについてはほぼすべてスキャンニングを完了し、そのデジタル資料に基づいて研究を進めた。その結果として、2022年3月～5月に顕彰館で「腹稿の世界」と題する展覧会を開催し、5月1日に講演会を開催した。また『熊楠研究』第14号（2020年）および第15号（2021年）に特集記事を掲載した。

#### 4. 研究成果

上記のような研究に基づいて『熊楠研究』第15号（2021年3月刊）～第18号（2024年3月刊）に論文や資料紹介のかたちで成果の刊行をおこなった。また南方熊楠顕彰会発行の『熊楠ワークス』56～63号（2021年～2024年刊）にも関連の記事を多く収録している。さらに、毎年8月初めに開催される南方熊楠研究会夏期例会、および一年に5回程度開催される南方熊楠顕彰館の展覧会と講演会などによって、研究成果の一般公開をおこなった。

具体的には、2021年3月20日～5月5日に南方熊楠顕彰館において「腹稿の世界」と題する展覧会を開催し、これまでの南方熊楠の「十二支考」などの腹稿に関する研究に基づいて、デジタル技術を駆使してオンデマンド形式での映像による説明をおこなった。これに関連して、2021年5月1日に同題の講演会を開催し、松居、志村らが発表をおこなった。

2021年7月31日～8月2日には、コロナ禍のために書面での南方熊楠研究会夏期例会を開催

し、オンラインを中心として本研究に基づく成果の発表をおこなった。特に公開シンポジウム「南方熊楠像を今どう語るのか 幽霊とニニフニ」において、辻、小田、志村が発表をおこなった。2022年3月に刊行した『熊楠研究』16号では、これらの成果について掲載している。

2022年7月31日・8月1日にもコロナ禍のため南方熊楠研究会夏期例会をオンラインで開催し、シンポジウム「南方熊楠像を今どう語るのか」の他、多くの共通論題・自由論題の発表がおこなわれた。11月20日に京都大学において南方熊楠ゼミナールを開催しシンポジウム「南方熊楠の情報源 - 「和漢洋三才図会」の世界」をおこなった。2022年1月9日に顕彰館において「寅年に考える南方熊楠研究の過去・現在・未来」と題する講演会をおこなった。

2023年8月3～5日には対面形式により南方熊楠研究会夏期例会を開催し、「南方熊楠の英文資料再考」と題する公開シンポジウムをおこなった。このシンポジウムでは、松居・志村などが2023年3月刊の『熊楠研究』17号で刊行した論文に基づく発表をおこなった。

展覧としては、2022年7月16日～9月19日に南方熊楠顕彰館において、松居・辻らが担当として「南方熊楠とこどものための図鑑—科学から幻獣・魔法使いまで—」を組織した。10月1日～11月13日に松居・志村などが担当者となり「熊楠とゆかりの人々・フランクス」展を組織した。この結果は『熊楠研究』17号に資料紹介として刊行されている。また2023年2月4日～3月5日に志村などが「熊楠のライバル 佐藤彦四郎：『N & Q』誌上で熊楠に論争を挑んだロンドン在住日本人」展を組織した。

上記のような活動に基づいて、2024年2月には志村編の『南方熊楠の生物曼荼羅』、3月には松居著『熊楠さん、世界を歩く。』が刊行された。前者では、志村、松居、平川、唐澤らが本研究に基づく論考を掲載している。後者は本研究の成果に基づいて、南方熊楠の思想を一般向けにわかりやすく解説したものである。

こうした成果発表によって、南方熊楠の思想の総合的な研究が実証的なかたちで飛躍的に進み、今後の研究のための確固たる基盤を固めることができたと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松居竜五	4. 巻 25
2. 論文標題 南方熊楠「十二支考」虎の回の解説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 龍谷大学国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松居竜五	4. 巻 60
2. 論文標題 21世紀の「十二支考」 多文化主義から多自然主義へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠ワークス	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 橋爪博幸	4. 巻 61
2. 論文標題 クモの巣をヒントに描かれた宇宙の不条理図	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 熊楠ワークス	6. 最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松居竜五	4. 巻 61
2. 論文標題 南方熊楠が夢中になった図鑑	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 熊楠ワークス	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 55 (5)
2. 論文標題 牧野富太郎と南方熊楠を分けたもの：官と民のあいだの植物学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 186-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 2
2. 論文標題 『ノーツ・アンド・クエリーズ』と南方熊楠：アマチュア学者たちの国際投書空間	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近代出版研究	6. 最初と最後の頁 156-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤哲朗・志村真幸	4. 巻 18
2. 論文標題 イギリスの学術空間における日本人アマチュア 『N & Q』の中の南方熊楠と佐藤彦四郎	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 58-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松居竜五、志村真幸、ブラダン・ゴウランガ・チャラン	4. 巻 16
2. 論文標題 南方熊楠英文資料 アメリカ時代の「文明進化論」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 (37) ~ (56)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松居竜五、志村真幸、ブラダン・ゴウランガ・チャラン	4. 巻 16
2. 論文標題 南方熊楠英文資料 大英博物館理事会への「陳状書」および関連書簡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 (57) ~ (86)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 16
2. 論文標題 英文論考の草稿の研究 - 『N & Q』掲載版との比較から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 (20) ~ (36)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋爪博幸	4. 巻 59
2. 論文標題 R.M.バックと南方熊楠の「光体験」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠ワークス	6. 最初と最後の頁 42 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 59
2. 論文標題 新発見・南方熊楠論考「粘菌の文献」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊楠ワークス	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋爪博幸	4. 巻 17
2. 論文標題 「一者なるもの」との邂逅 - - マイスター・エックハルトの説教と南方熊楠の土宜法龍宛書簡にみられる類似事項に関する考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 64 ~ 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 17
2. 論文標題 『N & Q』への草稿の翻刻と分析 - - 「アジアのオルフェウス」「悪魔学における鳥の鉤爪」ほか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 (3) ~ (11)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村義也、松居竜五、志村真幸、ブラダン・ゴウランガ・チャラン	4. 巻 17
2. 論文標題 南方熊楠自筆資料 大英博物館フランクスおよびリード宛て書簡	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 (50) ~ (88)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 唐澤 太輔	4. 巻 16
2. 論文標題 " tact " に関する哲学的考察 南方熊楠の言説から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 「エコ・フィロソフィ」研究 = Eco-Philosophy	6. 最初と最後の頁 81 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50873/9099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 松居竜五、蔡平里	4. 巻 23
2. 論文標題 東アジアの本草学・博物学に向かう視線：南方熊楠・スウィングル・田中長三郎の交流を中心として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 龍谷大学国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 57-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50873/9099	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松居竜五	4. 巻 15
2. 論文標題 虎に関する腹稿の解説(2)A稿およびD稿について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 60-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松居竜五	4. 巻 22
2. 論文標題 南方熊楠とスウィングル,田中長三郎の交流に関する新資料紹介（20世紀初頭のアメリカにおける東アジア博物学受容の研究：南方熊楠とスウィングル、および関連学者の交流を中心として）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷大学国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 15
2. 論文標題 虎の腹稿の『太陽』掲載版への利用状況（特集 腹稿の謎を探る(2)）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熊楠研究	6. 最初と最後の頁 79-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 94
2. 論文標題 博物学者・南方熊楠と学術賞の効能：写真で読む研究レポート	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アステイオン =	6. 最初と最後の頁 152-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村真幸	4. 巻 34
2. 論文標題 海外 南方熊楠のロンドンにおける「転向」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biostory	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 唐澤太輔	4. 巻 15
2. 論文標題 南方熊楠によるナギランの発見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「エコ・フィロソフィ」研究	6. 最初と最後の頁 69-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 唐澤太輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 粘菌鏡検－南方熊楠による「世界一般」への潜入－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『環世界の人文学－生と創造の探究－』	6. 最初と最後の頁 285-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松居竜五
2. 発表標題 南方熊楠が夢中になった図鑑
3. 学会等名 熊楠をもっと知ろうシリーズ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松居竜五
2. 発表標題 21世紀の「十二支考」 多文化主義から多自然主義へ
3. 学会等名 熊楠をもっと知ろうシリーズ（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻晶子
2. 発表標題 本草学から図鑑・理科へ
3. 学会等名 熊楠をもっと知ろうシリーズ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松居竜五
2. 発表標題 南方熊楠顕彰館はなぜ田辺にあるのか
3. 学会等名 南方熊楠顕彰館館長講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松居竜五
2. 発表標題 新発見「牛」腹稿の解説
3. 学会等名 南方熊楠顕彰館 講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志村真幸
2. 発表標題 南方熊楠の英文論文はいかに読まれたか フィクションとフォークロアと民俗学
3. 学会等名 南方熊楠研究会夏期例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 志村真幸
2. 発表標題 熊楠の食べた牛肉は美味しかったのか
3. 学会等名 南方熊楠顕彰館 講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平川恵実子
2. 発表標題 腹稿のさまざま
3. 学会等名 南方熊楠顕彰館 講演
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 松居竜五	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 熊楠さん、世界を歩く。 冒険と学問のマンダラへ	

1. 著者名 志村真幸	4. 発行年 2024年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 326
3. 書名 南方熊楠の生物曼荼羅：生きとし生けるものへの視線	

1. 著者名 志村真幸	4. 発行年 2023年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 264
3. 書名 未完の天才 南方熊楠	

1. 著者名 日本科学協会、酒井 邦嘉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 336
3. 書名 科学と芸術（松居竜五「生命を主体とする哲学 - - 南方熊楠とユクスキュル」193-218頁）	

1. 著者名 志村真幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社インターナショナル	5. 総ページ数 240
3. 書名 熊楠と幽霊	

1. 著者名 辻晶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 350
3. 書名 児灌頂の研究 犯と聖性	

1. 著者名 小田龍哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 384
3. 書名 ニニフニ 南方熊楠と土宜法龍の複数論理思考	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志村 真幸  (Shimura Masaki)  (00625204)	京都外国語短期大学・キャリア英語科・非常勤講師   (44306)	
研究分担者	平川 恵実子  (Hirakawa Emiko)  (30881768)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授   (16102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋爪 博幸  (Hashizume Hiroyuki)  (40412978)	桐生大学短期大学部・その他部局等・准教授（移行）    (42303)	
研究分担者	辻 晶子  (Tsuji Shoko)  (40825428)	大阪経済大学・経営学部・講師    (34404)	
研究分担者	唐澤 大輔  (Karasawa Taisuke)  (90609017)	秋田公立美術大学・大学院・准教授    (21403)	
研究分担者	小田 龍哉  (Oda Ryosuke)  (90821744)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員    (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関